

モリコロ基金 市民の力に

今年度中に解散

10年で10億円助成

2005年に行われた愛・地球博（愛知万博）の剰余金を原資に市民の社会貢献活動を支援してきた「あいちモリコロ基金」の終了記念フォーラムが12日夜、名古屋市内であった。昨年6月までの10年間に1603事業、計約10億8000万円を助成した基金が市民活動の底辺拡大に寄与したことや、基金で育った市民活動が資金や人材を確保するための方策や課題などについて議論が交わされた。（小栗靖彦）

記念フォーラム



基金の活動と今後について議論したフォーラム（名古屋市内で）

07年に設立されたモリコロ基金は剰余金の一部約12億9000万円を元に、環境保全や子ども育成など、愛知万博の理念を継承・発展させる活動を展開する県内の団体やグループに毎年約1億円を助成してきた。基金は今年度中に解散する。

この日は約150人が参加し、パネル討論などが行

金が集まり、地元で活動する団体が着実に根付いたのが一番の成果」と評価したように、助成対象の約半数が活動開始から5年以内の団体やグループだった。

成果を振り返った。助成を受けた団体やグループの実績報告から、活動に参加した人は延べ100万人を超えたという。各団体の実績などは年度内にモリコロ基金のホームページ

は資金面だ。

加藤義人・三菱UFJリサーチ&コンサルティング主席研究員は「資金が集まらないと活動にまわらない。客観的なデータを使っ

て具体的に活動の意義を示すことが大切だ」などと、活動への理解を広げ会費や寄付を増やすことを提言していた。

今年2月には、同基金に携わったメンバーが中心となって一般財団法人「中部圏地域創造ファンド」を設立した。同ファンドは、地域で多様な基金をつくった上で、寄付を呼びかけ助成する仕組みという。大西光夫理事は「モリコロ基金の仕組みや経験を生かしたい」と話している。